

中国時代劇の日本語字幕における文化的表現の翻訳ストラテジー —『琅琊榜』を例に—

貢 希真

(東北大学国際文化研究科博士後期課程)

Abstract

This paper uses the concept of Extralinguistic Cultural Reference (ECR) by Pedersen (2011) to examine the translation strategies of cultural references in Japanese subtitles of a Chinese historical TV drama Nirvana in Fire. As a result, Retention, means of keeping the original Chinese characters as is in subtitles, is the most common strategy used. Frequently used ECRs which are closely related to the story are usually rendered by using Retention. In contrast, trivial ECRs that appear only a few times are mostly rendered by using Omission and Generalisation. Strategies of Direct Translation, Specification and Substitution are seldom employed. This is the result of maximizing the use of characters common to Chinese and Japanese in order to preserve the features of the historical drama.

1. はじめに

映像と音声に伴う映画やドラマなどは、異文化に触れる手軽な方法のひとつであるが、その際、字幕という視聴覚翻訳 (Audiovisual Translation/AVT) が重要な役割を果たす。中国ドラマも近年は日本のテレビで字幕付きで放送されることが多くなっている。中国語ができない日本の視聴者にとって、映像と並んで字幕は作品の内容や中国の文化を知るために必要な手段である。視聴者に異文化を十分に伝えるためには、その文化を字幕に表さなければならない。その反面、異文化表現が多すぎると分かりづらくなり、反って異文化が伝わらなくなってしまふ。これからますます盛んになるべき両国の文化交流を見据え、字幕翻訳の現状を詳しく分析する必要がある。

本稿は、2015年9月19日に中国で、そして2016年4月11日に日本でテレビ放送された中国ドラマ『琅琊榜』(日本語タイトル:『琅琊榜～麒麟の才子、風雲起こす～』)を題材とし、そこに現れる文化的表現を抽出し、その日本語字幕の翻訳ストラテジーとその分布を考察し、その原因を探ることを目的とする。

以下、2節では字幕のストラテジーに関する理論的な先行研究を概観する。3節では『琅琊

榜』を選んだ理由と分析方法について述べる。4 節でカテゴリーごとに用いられた翻訳ストラテジーをまとめ、5 節ではその結果を考察する。6 節は結論である。

2. 先行研究

2.1 言語外文化的指示

字幕翻訳は通常の文書翻訳とは大きく異なるため、文書翻訳の理論をそのまま当てはめることはできない。多くの研究者が指摘するように (Gottlieb 1992; Karamitroglou 1998; Díaz Cintas 2008; 清水 1992: 16-17)、字幕には時間と空間の制限がある。言語によって異なるが、一度に表示される行数、一行あたりの文字数、字幕の持続時間などの制約により、情報の圧縮や削除は避けられない。この厳しい制約の中で、Pedersen (2011: 41) は字幕の翻訳ストラテジーを選択する際に特に気を配るべき要素を提案した。それが言語外文化的指示 (Extralinguistic Cultural Reference / ECR) である。彼は ECR を以下のように定義している。

Extralinguistic Cultural Reference (ECR) is defined as reference that is attempted by means of any cultural linguistic expression, which refers to an extralinguistic entity or process. The referent of the said expression may prototypically be assumed to be identifiable to a relevant audience as this referent is within the encyclopedic knowledge of this audience. (43)

言い換えれば、ECR とは地名、人名、習慣、食べ物など、ことばは分かっても、具体的な内容まで知らないかもしれないような指示対象を指す。また、ECR は実際に存在する必要がなく、架空のものでよい。関連する視聴者とはその文化においてすべての人ではなく、一部の人、例えばある番組の視聴者だけでもよい。一つの言語表現が ECR かどうかを判断する簡単な方法は、“Is the linguistic expression in itself transparent enough to enable someone to access its referent without cultural knowledge?” (Pedersen 2011: 48) との問いかけに、答えがノーであれば ECR で、イエスであれば ECR ではない。

Gottlieb (2009) によれば、ECR の翻訳ストラテジーは字幕が忠実であるかどうかを判断する適切な指標である。Gottlieb は忠実度の高い順から保留 (Retention)、直訳 (Literal Translation)、特定 (Specification)、一般化 (Generalisation)、置換 (Substitution)、省略 (Omission) という 6 つの翻訳ストラテジーを提案している。Pedersen (2011: 74-77) はこれに公式等価 (Official Equivalent) を加え、保留、直訳、特定を起点志向 (Source oriented)、一般化、置換、省略を目標志向 (Target oriented) に分類し、公式等価を独立したストラテジーとする。

さらに、Pedersen (2011:59-60) は収集したデータにより ECR を以下の 12 領域 (domain) に分類している¹。すなわち、①度量衡 (Weights and measures)、②固有名詞 (Proper names)、③職業上の役職名 (Professional titles)、④料理及び酒類 (Food and beverages)、⑤文学 (Literature)、⑥政府 (Government)、⑦娯楽 (Entertainment)、⑧教育 (Education)、⑨スポーツ (Sports)、⑩通貨 (Currency)、⑪技工物 (Technical)、⑫その他 (Other [sic]) である。しかし、この分類は Pedersen 自身も認めているように、Scandinavian Subtitles Corpus に出現する ECR しか対象になっていないなどの問題点がある。従って、研究対象が変わると、領域の再分類を

する必要があるかもしれない。

2.2 日本語字幕研究について

日中間、特に中国語の映像作品に付された日本語字幕についての研究は少ないが、そうした中で、李(2011)は映画『狙った恋の落とし方』の日本語字幕における翻訳技法を、王(2014)は映画『さらば、わが愛／霸王別姫』の翻訳ストラテジーを調べている。いずれも、原文から逸脱した意識や省略が多いが、直訳や保留は少ないことを指摘している。

以上の二つの例は近代・現代を舞台にした映画である。それに対し、于(2014)は中国の清朝の宮廷の物語を描いたテレビドラマ『宮廷の諍い女』の日本語字幕を分析し、慣用表現や日常会話などは言い換える場合や省略するが多いが、清朝時代の特徴を表す地名、官位、管理機構、固有名詞などはほとんど漢字を保留した上で短い注釈を付け加え、詩などの引用も出典が表示されていることを見出した。果たして、異文化要素が多くなればなるほど同じような結果が得られるのかどうか、さらに検証を続ける必要がある。

通常であれば、先に述べた字幕における時間と空間の制約と、字幕は視聴者に自分が字幕を見ていることを気づかせてはならないものであるべきだという考え(Díaz Cintas & Remael 2014: 185)が、字幕に注釈を入れることを強く阻んでいる。注釈を付け加えることは日本語字幕にとって革新的なことなのである。字幕に注釈を付ける方法はもともとファンが作る字幕であるファンサブ(fansub)によく使われる手法であった。Nornes(1999)は注釈を入れるのは訓練を受けていないファンサブの翻訳者が「本能的に」したことであると述べているが、日本語字幕のプロの翻訳者が注釈をつけるとすれば、本能ではなく明確な意図が働いていると考えられる。鄭(2014)は日本語字幕における注釈に注目し、中国宮廷ドラマ『宮廷女官 若曦』で人物、官職、機構などの ECR に関する注釈が大量に盛り込まれているのは、作品鑑賞にとってそれが必要不可欠だからであると述べている。

3. 研究対象と研究方法

3.1 『琅琊榜』について

本稿の目的は、舞台となる地域や時代が異なることにより異文化要素が多くなると、翻訳ストラテジーもそれに併せて変化するかどうかを検証することにある。そこでここでは中国ドラマ『琅琊榜』の日本語字幕を分析対象に選んだ²。これは中国人女性作家海宴が2006年にインターネットで発表した同名小説を実写化した作品である。中国の南北朝時代をモデルとした架空の時代を舞台とし、陰謀により一族を滅ぼされた主人公・林殊が12年後に梅長蘇と名前を変え、家名再興と復讐のため、再び朝廷に足を踏み入れ、皇位をめぐる権力争いに身を投じていく。中国版エミー賞と言われる「国劇盛典」において、2015年の「影響力を持つドラマ」「最優秀男優」など最多9部門で10冠を達成した。日本以外に、韓国、マレーシア、シンガポール、オーストラリア、アメリカ、カナダでも放送された。最近では最も優れた歴史物ドラマで、異文化的要素も多い。本稿では、ノーカット版DVD-BOX 1の18話(全54話の1話~18話、計830分)の日本語字幕をデータとする。翻訳者は前述の『宮廷の諍い女』、『宮廷女官 若曦』を含む数多くの中国映画やドラマを翻訳したベテラン翻訳者の本多由枝³である。

3.2 分析方法

本研究は原文に見られる文化的表現を抽出し、それを領域別に分けて、それらに対するストラテジーとその分布を分析する。Pedersen (2011:41,74-77) が提案する ECR の概念と、Gottlieb (2009) の 6 つのストラテジー (直訳、省略など) を採用する。Pedersen の ECR に対する定義によれば、実在するかどうかに関係なく、ユニコーンやシャーロック・ホームズなど架空のものも ECR であるが、架空のものすべてが ECR というわけではない。この物語の舞台はあくまで架空の時代に設定されており、様々な時代の要素が混在し、架空の機構、官職、地名、場所も多い。そこで、この作品だけではなく、他の多数の作品に登場するものは ECR と見なすが、本作品にしか登場しない架空のものは ECR と見なさないこととした。また 6 つのストラテジーと併用される注釈も存在するので、それも一緒に提示する。注釈は画面の左か右に縦書きのイタリック体で表示される。

なお、本作品に見られる ECR は政治制度 (①官職・身分・呼称、②機構)、具体的な文物や土地 (③物品、④地名・場所)、社会的な制度や習慣 (⑤祝日、⑥度量衡・通貨、⑦社会常識)、の 3 分野 7 領域に分類することができた。

また、ひとつの ECR が複数の機能を持つことが少なくないため、異なり語数 (type) と延べ語数 (token)⁴ の両方とも数える。異なり語数の場合、異文化的要素を字幕に残す場合の数を調べるため、原文に最も忠実なストラテジーを数えた。例えば、「郡主」という語は 220 回出現し、そのうち保留が 141 回、置換が 2 回、省略が 77 回現れた。この場合、この語の延べ語数は 220、異なり語数は 1 で、「郡主」に対する翻訳ストラテジーは保留となる。注釈の数は括弧に入れ、代表的な例も挙げて分析する。原文は中国語オリジナル字幕による。振り仮名は日本語字幕本来のものである。重要な箇所は太字にする。

4. 領域別のストラテジー分析

4.1 官職・身分・呼称

中国では、官職や身分を呼称として使用することが多いため、両者をひとつのカテゴリーにまとめる。また、今回分析対象とするドラマは宮廷の権力争いに関する物語であるため、官職や身分の位が話の理解に対して非常に重要である。官職や身分の翻訳ストラテジーの分布は以下の通りであった (括弧内は注釈の数)。

表 1 官職・身分・呼称の翻訳ストラテジーの分布

	保留	直訳	特定	一般化	置換	省略	合計
延べ語数	496 (24)	4	8	25	6	225	764
異なり語数	32 (6)	2	5	9	0	11	59

延べ語数も異なり語数も、保留が半分以上の割合を占めている。その次に多いのが省略で、一般化も少しあるが、直訳、特定、置換はほとんどない。延べ語数が多ければ保留ストラテジーをとることが多く、少なければ省略あるいは一般化が選ばれる傾向にある。例えば、「郡主」

「大统领」「尚书」はそれぞれ 220 回、80 回、54 回出現し、そのうち保留は 141 回、56 回、43 回である。「长史」「佾作」「惠妃」はそれぞれ 2 回、1 回、1 回出現して、全て省略されている。「詹事」は 4 回出現し、そのうち 1 回は「配下」と一般化され、3 回は省略されていた。このように、出現回数(延べ語数)と翻訳戦略には相関関係が見られる。具体例は以下の通りである。なお、原文は ST(Source Text)、字幕は TT(Target Text)と略す。

(1) ST: 霓凰郡主跟蒙大统领交手

百招之后才落败

TT: 郡主は 100 手で

蒙大统领に敗れたが

(第 2 話 5:20)

「郡主」はもともと皇帝の娘あるいは皇太子の娘のこと、またその称号であるが、本作品では皇帝に親縁関係がある地方の王の娘を指す。日本の「姫」に近い概念でもあるが、字幕では同じ漢字を用いて保留している。「大统领」は禁軍(皇宮を警衛する皇帝直属の軍隊)の将軍を指す。今の「大統領」と全く異なるが、そのまま残している。

例(2)と(3)は両勢力が相手より先に梅長蘇を配下に招き入れようとするシーンである。「长史」は秘書役の官職で、「詹事」は皇太子の配下にある官職である。具体的な人物もなく、延べ語数も少ない。重要でない内容と認識され、一方は省略され、もう一方はただの「配下」と一般化される。

(2) ST: 还是派一名长史

明日一早就出发

务必赶在太子之前见到此人

TT: 皇太子よりも先に

梅長蘇ばい・ちようそに会わねばなりません

(第 1 話 19:59)

(3) ST: 即刻派一名詹事前往廊州

务必要抢先和梅长苏搭上话

TT: 配下ろうしゅうを廊州へ遣わし

先に梅長蘇ばい・ちようそを招くのだ

(第 1 話 20:05)

しかし、話の流れで省略できない場合、延べ語数が少なくとも保留される。(4)は官吏の名前を読み上げるシーンである。「官職+名前」という形式で、「郎中」も「大理寺丞」も 1 回しか出現しない語だが、流れを断つことはできないので、保留されている。

(4) ST: 郎中 韩致义

大理寺丞 张鉴祯

TT: 郎中 韓致義
大理寺丞 張鑑禎

(第 10 話 13:29)

官職や身分の意味が伝わりにくいと判断されると、保留されると同時に、注釈が付けられる。下の「長公主」は物語において重要な役割を担う人物である。この語は 42 回出現し、26 回保留されている。「長公主」の字面からは身分が分からないため、「皇帝の姉妹」という注釈が付けられている。

(5) ST: 听闻长公主殿下
有张焦尾古琴
TT: 長公主殿下は
焦尾琴をお持ちとか
長公主... 皇帝の姉妹

(第 16 話 37:47)

「娘娘」も、文字だけでは日本人視聴者にわかりづらいが、位の高い女性に対する尊称である。延べ語数は 98 回、そのうち 59 回が保留されている。字幕では漢字表現を保留し、さらに振り仮名がを付けられている。

(6) ST: 您的当务之急
是尽快让贵妃娘娘复位
TT: 早く貴妃娘娘を
復位させることです

(第 11 話 4:45)

直訳、特定、置換の例もそれぞれひとつずつ挙げる。

例(7)の「太医」は古代帝王や高官などを診る医者であり、「侍医」と直訳される。例(8)の「国舅爷」は皇帝の意味の「国」と妻の兄弟の意味の「舅爷」を合成した語で、この物語で皇后は妹なので、「陛下の義兄」と特定できる。例(9)は後宮官職である「貴妃」を尊称の「娘娘」と置き換えている。

(7) ST: 不过太医说了
TT: ですが侍医いわく

(第 12 話 40:14)

(8) ST: 难道你以为
令尊这个侯爵之位

只凭他是言太师的儿子

有**国舅爷**的身份

便可轻易得来吗

TT: お父君が侯爵の位を得たのは

親の威光や**陛下の義兄**という

立場によるものか？

(第2話 5:46)

(9) ST: 竟敢抬出越**贵妃**的名头来

TT: **娘娘**の名を笠に着的気？

(第3話 2:46)

4.2 機構

官職がある以上、その官職が属する中国特有の機構も多々登場する。各機構を利用する駆け引きも本作品の見どころであるが故に、各機構の機能を視聴者が分かるようにしなければならない。翻訳ストラテジーの分布は以下のものであった。

表2 機構の翻訳ストラテジーの分布

	保留	直訳	特定	一般化	置換	省略	合計
延べ語数	185 (35)	1	22	2	17	90	317
異なり語数	16 (10)	1	0	2	1	2	22

機構に関しても、保留が非常に多く、特に異なり語数では4分の3を占める。また、異なり語数のほぼ半分に注釈が付けられている。即ち、大半の機関は名称からはその機能を推測できないと翻訳者は考えたのであろう。

(10) ST: 今日陛下召我进宫

命我主审滨州侵地一案

刑部 大理寺和廷尉司协理

TT: 本日 陛下より命じられた

刑部 大理寺らと

濱州事案を審理しると

大理寺...裁判を司る部門

(第9話 9:51)

刑部は六部のひとつで、別のところで「司法を司る部門」という注釈が付けられている。「刑」という字は日中で共通しているので、推測は可能かもしれないが、「大理寺」は寺院ではなく、

裁判を司る部門である。「廷尉司」は刑罰を司る部門で、ここは省略されている。

また、完全に省略される機関名もある。(11)の「三司」はこの物語では例(10)の「刑部」「大理寺」「廷尉司」という三部門の総称である。三部門を全て挙げると字幕が長くなるが、漢字そのままでは意味が伝わらない。注釈を付けても、注釈自体が長くなり、視聴者への負担が大きすぎる。8回も出現するが、全て省略されているのはそのためであろう。

- (11) ST: 陛下今日下了谕旨
开审庆国公滨州一案
靖王是主审 三司协理
TT: 陛下は今日
慶国公の事案について
靖王に審理を命じた

(第9話 26:18)

さらに、「东宮」という語は、特定や置換の異なり語数が0と1であるが、延べ語数ではそれぞれ22と17に及ぶ。「东宮」は皇太子が住む宮殿で、転じて皇太子やその勢力を指すことが多い。字幕は東宮の意味によって異なる翻訳戦略を取る。

- (12) ST: 留在东宫
禁足三个月
TT: 東宮で3か月間
禁足処分とする
- (13) ST: 东宫的動作倒也不慢
TT: 東宮側の動きも早い

(第6話 2:40)

(第8話 20:40)

- (14) ST: 料想这东宫的位子
就快该动一动了
TT: 皇太子の地位も
揺らぎましょう

(第6話 22:01)

例(12)の「东宮」は建物を指しているなので、漢字をそのまま保留して「東宮」となる。例(13)では皇太子の勢力を指すので、特定の戦略を使い、「側」を後ろに付ける。例(14)では皇太子の位を意味するので、皇太子と置き換える。この例は ECR の多義性を反映している。

4.3 物品

この作品には、中国の古代文化を反映する物品も多数登場している。最も多く使われた戦略は一般化であった。大多数は日本に存在しないものであるため、保留や直訳では日本の視聴者には伝わらないと判断されたからであろう。また、ここに現れた物品は延べ語数も少なく、ストーリーとの繋がりも薄い。一般化するか省略するのが妥当である。

表3 物品の翻訳戦略の分布

	保留	直訳	特定	一般化	置換	省略	合計
延べ語数	3	5	0	17 (1)	1	10	36
異なり語数	3	4	0	12 (1)	1	6	25

具体例を見よう。例(15)の「酥」とは中国の伝統的なクッキーの一種であるが、日本では知られていないため、「菓子」と一般化される。ただ、注意すべき点はこの語に対する注釈である。「榛子」自体は文化的なものではないが、日本語では一般に「ハシバミ」として知られる植物である。しかし、中国の時代劇の台詞で、カタカナは違和感があったのであろう。理解できる人は限られるとしても、字幕ではそのまま「榛子」とし、「ハシバミ」は注にまわしている。(16)の「汤圆」も中国の伝統食品で、もち米の粉で作った餡入りの団子である。ストーリーの展開とあまり関係がないので、翻訳は工夫して回避してある。

(15) ST: 给景琰的**榛子酥**早已经做好了
你找人给他送去吧

TT: ^{しんし}榛子の^{けいえん}菓子を景琰に届けて
榛子...ハシバミの実

(第2話 21:42)

(16) ST: 这芝麻馅的**汤圆**真香
里面定是放了干桂吧

TT: 胡麻に^{けいひ}桂皮を
加えていますね?

(第15話 38:05)

4.4 地名・場所

本作品に登場する地名や場所は殆ど架空のもので、文化的表現とは言い難い。しかし、中国を舞台としている以上、いくつか実在する地名や場所がある。翻訳戦略の分布は以下の通りである。

表 4 地名と場所の翻訳ストラテジーの分布

	保留	直訳	特定	一般化	置換	省略	合計
延べ語数	28 (3)	0	0	0	7	16	51
異なり語数	5 (1)	0	0	0	0	1	6

異なり語数を見ると、地名や場所はほぼ保留されるが、延べ語数で見ると、保留は約半分しかなく、置換は数例にすぎない。金陵を例にとろう。金陵は南京の古称である。歴史上南朝の梁の都は確かにそこにあったが、その頃の名称は「建康」である。例(17)は金陵が初めて出現した場面で、保留した上で、梁の都という注釈をつけることによって、視聴者がすぐに金陵の重要性を理解できるようにした。例(18)は金陵の政治的意味を明確にするため、「都」に置き換えてある。

(17) ST: 是不是要传信去金陵呢

TT: 金陵きんりょうに一報を?
金陵...りょう梁の都

(第 1 話 5:32)

(18) ST: 金陵城中风云已起

TT: 都に風雲は立ち込めた

(第 6 話 25:00)

4.5 祝日

祝日は中国の民俗文化に関するものである。延べ語数も異なり語数も少ないが、興味深い点もある。

表 5 祝日の翻訳ストラテジーの分布

	保留	直訳	特定	一般化	置換	省略	合計
延べ語数	0	0	3 (1)	3	0	1	7
異なり語数	0	0	3 (1)	2	0	0	5

異なり語数は 5 個あるが、実際に出現する祝日は 3 つしかない。それはひとつの祝日に複数の名称が存在するからである。中国語では「元宵」「灯节」「上元」は全て旧暦正月 15 日の「元宵节」の別称である。しかし、この三つが同じものを指すということを知っている日本人視聴者はいないであろう。そこで、日本語字幕は全て「元宵節」に統一することで、中国の習俗であることを感じさせつつ、分かりやすくしている。例(19)が特定、例(20)、(21)が一般化となる。

- (19) ST: 元宵后就要复印开朝
他就要向陛下禀报
TT: ^{げんしょうせつ}元宵節後
陛下に報告するつもりだ
(第 16 話 24:25)
- (20) ST: 那正月快过完了 刚好走动
咱们就约十五灯节那天
凑个热闹
TT: 正月も終わるので
15 日の^{げんしょうせつ}元宵節にどうです？
(第 15 話 32:24)
- (21) ST: 他是不是上元之夜又出去了
TT: ^{げんしょうせつ}元宵節の夜 外出を？
(第 17 話 3:29)

また、注釈に困る例もある。例(22)の後半のセリフは誕生日のプレゼントを要求する人物に対する皮肉である。字幕は7月15日を中元節と特定化した上で、注釈で説明している。旧暦の7月15日は中国の中元節で、日本のお中元の時期に相当する。中国の慣習で、その日には誕生日を祝うことができないため、プレゼントを受け取れない。しかし、そこまで説明すると注釈が長くなりすぎてしまう。

- (22) ST: — 苏兄
我的生日是七月七
你可别忘了啊
— 我看你呀
索性再晚生几日
生到七月十五
岂不更好
TT: — 私の誕生日は7月7日です
お忘れなく
— もう少し遅く生まれれば
^{ちゅうげんせつ}中元節なのにな
中元節... 靈魂を慰める節句
(第 15 話 39:29)

4.6 度量衡・通貨

度量衡と通貨は通じるところがある。例えば「两(両)」は通貨単位である同時に重量単位でもある。出現するすべての度量衡と通貨単位は全部保留の戦略を取る。

表 6 度量衡と通貨の翻訳ストラテジーの分布

	保留	直訳	特定	一般化	置換	省略	合計
延べ語数	4	0	0	0	0	0	4
異なり語数	3	0	0	0	0	0	3

次の例では、1000 両は今日の 50 キログラムに、1 斛は 100 リットルに相当する。しかし、今日の単位に換算しては時代劇の雰囲気は壊れてしまう。また、このシーンでは具体的な量は重要ではなく、ただ量が多いということが伝えればよいので、単位は保留されている。

- (23) ST: 特賞錦緞百匹
 黄金千兩
 特賜南珠一斛
 以資奨励
- TT: 褒美として絹織物 100 匹と
 黄金 1000 両
 こたびの行動を称え
 南珠を1斛^{こく}与える

(第 6 話 8:06)

4.7 社会常識

社会常識とは、習慣、思想、制度、言い伝えなど、社会において知るべき事柄を指す。それらの翻訳ストラテジーの分布を以下の表で示す。

表 7 社会常識の翻訳ストラテジーの分布

	保留	直訳	特定	一般化	置換	省略	合計
延べ語数	68 (20)	5	2	22	5(1)	25	127
異なり語数	10 (2)	3	1	16	4(1)	3	37

延べ語数から見れば、保留が半分以上を占めているが、異なり語数では、一般化が多い。これは延べ語数が多く、保留ストラテジーを取る語の働きによるものである。「江湖」の場合、延べ 57 回のうち、44 回は保留され、13 回は省略されている。「江湖」は非常に深い文化的意味を持ち、一種の生き方でもある。「侠客が属する世界」という解釈はその表面の意味に過ぎず、「侠客」という概念で日本の視聴者が理解できるかどうかは疑わしい。しかし、注釈にも字数制限があり、深く説明することはできない。

- (24) ST: 问题出自朝堂
答案却在**江湖**
TT: 答えは**江湖**にあるのだ
江湖... 侠客が属する世界

(第 1 話 15:20)

しかし、このような大多数の中国古代の社会常識は、知らなくても物語の理解にほぼ支障が出ないため、一般化されるか省略されるのが普通である。例(25)には2つの ECR がある。「定窑」は中国宋代の五大名窯のひとつで、その窯からの磁器は非常に高価なものであるが、字幕では省略されている。「薄胎描青花」は「薄手で青い花柄」という意味で、中国の有名な染付を指している。高級な茶器だが、字幕ではただの「花柄の杯」と一般化される。

- (25) ST: 你记清楚了
这个**定窑**的杯子
是宗主用来喝茶的
这个**薄胎描青花**的用来喝酒
不能与其他人的混放
TT: 覚えておいて
こちらが宗主が使う茶器で
花柄の杯は
お酒を飲む時に使うの

(第 16 話 29:24)

重要性の低い ECR は日本人に分かりやすい語に訳されており、視聴者はストーリーに集中してドラマを楽しむことができる。「地下钱庄」は即ち現代の地下銀行と相当するもので、「闇の両替商」と直訳されている。「风月场所」は一見雅な場所に見えるが、実際は娼館の隠語である。「子时」はいわゆる子の刻(午後 11 時から午前 1 時まで)で、夜明けが年明けでもあるという状況である。

- (26) ST: 听说这一片巷子里
藏着许多**地下钱庄**
TT: **闇の両替商**があるらしい

(第 16 話 21:20)

- (27) ST: 曾在京城拥有多处**风月场所**
TT: 都で**娼館**を営んでいました

(第 8 話 7:33)

- (28) ST: 这马上就到**子时**了
TT: もうじき**年明け**です

(第 14 話 24:25)

5. 考察

以上、分析を行った ECR を集計し、延べ語数と異なり語数から見たストラテジーの分布は以下ようになる。

表 8 ECR の翻訳ストラテジーの分布

	保留	直訳	特定	一般化	置換	省略	合計
延べ語数	784 (82)	15	35(1)	69 (1)	36 (1)	367	1308
延べ語数の比率	59.94%	1.15%	2.68%	5.28%	2.75%	28.06%	100%
異なり語数	69 (19)	10	9 (1)	41 (1)	6 (1)	23	157
異なり語数の比率	43.95%	6.37%	5.73%	26.11%	3.82%	14.65%	100%

延べ語数、異なり語数の双方において最も多い三つのストラテジーは保留、一般化、省略である。保留は延べ語数では 6 割近く、異なり語数でも 4 割以上を占めている。また注釈は保留と併用されることが多い。保留の ECR のうち、異なり語数から見て、およそ 3 割に注釈が付いている。省略の延べ語数は全体の 4 分の 1 を超えているが、異なり語数が比較的少ない。一般化の延べ語数と異なり語数はあまり変わらない。延べ語数から見れば、日本語字幕は ECR に関して両極端の戦略が見られる。官職や機構のようなストーリーとの関連性が高く、出現回数も多い語は漢字が共通していることを利用して保留されている。しかし、字幕を読みやすくするため、ECR を含めたかなりの情報が省略されている。また、異なり語数から見ると、省略より一般化のほうが多い。物品や社会常識などストーリーとの関連性が低く、出現回数も少ない語はただ省略されるのではなく、視聴者がストーリーに集中できるように一般化される。これは字幕翻訳者がドラマを楽しませることを最優先項目としているということの表れといえよう。

直訳、特定、置換の 3 つのストラテジーは、延べ語数も異なり語数も非常に少ない。これはこの作品が時代劇であるためであろう。多くの ECR が中国古代のもので、洗練された表現が多く、直訳したり特定化したりすると長くなる。また、他のものに置換するのも難しい。中国以外のものに置き換えると中国的な特徴が失われ、現代のものに置き換えると時代の雰囲気失われる。しかし、日中両国で漢字が共通しているため、漢字表現をそのまま保留すれば、中国の特徴も時代の雰囲気も反映させることができる。

しかし、逆に考えれば、漢字に頼りすぎているとも言える。物語の進展と深く関わる機構「刑部」を例に考えよう。刑部は司法を司る中国古代特有の機構で、直訳すると「司法部門」となるが、これでは現代物のようなものである。刑部という単語は意味が限定されているので、これ以上特定できない。また、物語と強く結びついており、何度も登場するため、一般化や省略で逃げることはできず、結局、保留が最適な選択となる。しかし、単なる保留では、視聴者が理解できない恐れがあり、注釈が必要となる。

日本語と中国語は共通する漢字がある故に、翻訳者はできるだけその利点を利用して原文に近づけようとする。それ故に保留ストラテジーが多用され、いろいろな表現を保留し続けなければならない。その結果、注釈なしでは視聴者が字幕を理解できなくなる。漢字の共有は強

力な武器であると同時に、足枷ともなりかねないのである。

6. おわりに

本稿は中国ドラマ『琅琊榜』の日本語字幕を対象とし、日本語字幕における文化的表現の翻訳ストラテジーについて考察した。Pedersen (2011: 41) が提案する言語外文化的指示 (ECR) の概念を用いて、出現する ECR を抽出し、①官職と身分と呼称、②機構、③物品、④地名と場所、⑤祝日、⑥度量衡と通貨、⑦社会常識の 7 つの領域に分類し、分析した。その結果、延べ語数が多く、物語との繋がりが強い ECR は保留されるが、延べ語数が少なく、物語との繋がりが弱い ECR は一般化また省略され、直訳、特定、置換はあまり使われていないことを明らかにした。

保留が非常に多く、また保留とされる ECR のうち、およそ 3 割に注釈が付けられているが、これは翻訳対象が中国語の時代劇であることから、その異国性をなるべく保持すべく、日本語と中国語の漢字が共通していることを最大限利用した結果であろう。

今回の分析対象は異文化要素の多い中国語の時代劇で、他のジャンルのドラマ、また、時間の短い映画を分析すれば異なる分布が出る可能性もある。これは今後の課題としたい。

.....
【著者紹介】 貢希真 (GONG Xizhen) 東北大学国際文化研究科言語科学研究講座博士後期課程在学中。主に日中間の字幕翻訳の忠実性を研究する。連絡先: xizhen.gong@gmail.com

【注】

- 1 12 領域の日本語訳は篠原 (2013: 82-83) による。
- 2 『琅琊榜』日本語公式サイト (2017/9/30 アクセス):
<https://www.ch-ginga.jp/feature/rouyabou/>
- 3 本多由枝に関する情報 (2017/9/30 アクセス): <http://y2cworks.co.jp/works/>
- 4 延べ語数 (token) では、連呼する場合は 1 回しか加算しない。

【参考文献】

- Díaz Cintas, J. (2008). "Teaching and learning to subtitle in an academic environment". In Díaz Cintas, J. (ed.), *The Didactics of Audiovisual Translation*. Amsterdam: John Benjamins, 89-103.
- Díaz Cintas, J., & Remael, A. (2014). *Audiovisual Translation: Subtitling*. New York: Routledge.
- Gottlieb, H. (1992). "Subtitling - A New University Discipline". In C. Dollerup & A. Loddegaard (eds.), *Teaching Translation and Interpreting. Training, Talent, Experience*. Amsterdam: John Benjamins, 161-170.
- Gottlieb, H. (2009). "Subtitling Against the Current: Danish Concepts, English Minds". In Díaz Cintas, J. (ed.), *New Trends in Audiovisual Translation*. Clevedon: Multilingual Matters,

21-43.

Karamitroglou, F. (1998). "A Proposed Set of Subtitling Standards in Europe". *Translation Journal*, 2(2), 1-15.

Nornes, A. M. (1999). "For an abusive subtitling". *Film Quarterly*, 52(3), 17-34.

Pedersen, J. (2011). *Subtitling Norms for Television: An exploration focusing on extralinguistic cultural references*. Amsterdam: John Benjamins.

李悦 (2011)『中国映画の日本語字幕について』吉林财经大学修士論文

于梦思 (2014)『从“同化异化”视角看电视剧的日文字幕翻译——以《甄嬛传》为中心』燕山大学修士論文

王芳 (2014)『スコpos論から見る字幕の翻訳』湖南大学修士論文

鄭雁天 (2014)「テレビドラマの日本語字幕における注の機能主義的分析: 中国宮廷ドラマ『步步驚心』を例に」日本通訳翻訳学会『通訳翻訳研究』14, 53-73.

篠原有子 (2013)「映画『おくりびと』の英語字幕における異文化要素(日本的有標性)の翻訳方略に関する考察」日本通訳翻訳学会『通訳研究への招待』9, 81-97.

清水俊二 (1992)『映画字幕は翻訳ではない』早川書房

【映像作品】

『瑯琊榜～麒麟の才子、風雲起こす～』DVD-BOX 1 (1 話～18 話) ポニーキャニオン

『瑯琊榜』(1 話～18 話) 中国語オリジナル版 山东影视传媒集团 et al.